

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Therapeutic and clinico-pathological factors in the survival of 1,469 patients with primary cutaneous malignant melanoma in clinical stage I. A multivariate regression analysis.	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1. 有り 2. 無し （ 1 ）	
	ガイドライン上での目次名称	MMCQ10-6	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ IV ）	
	Pubmed ID	3936264	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Virchows Arch A Pathol Anat Histopathol	
	雑誌 ID		
	巻	408	
	号	2-3	
	ページ	249-58	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1. 医学 2. 歯学 3. 看護 4. その他 （ 1 ）	
	原本言語	1. 日本語 2. 英語 3. ドイツ語 4. その他 （ 2 ）	
	発行年月	1985	
	著者情報		氏名
筆頭著者		Sondergaard K	The Finsen Institute
その他著者 1		Schou G	Danish Cancer Registry
その他著者 2			
その他著者 3			
その他著者 4			
その他著者 5			
その他著者 6			
その他著者 7			
その他著者 8			
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	生存率に關与する原発巣の治療に關係した臨床病理学的因子の検討	
	研究デザイン	症例対照研究	
	セッティング	The Finsen Institute	
	対象者	1949-1978 年における発症時に転移の無い患者 2012 人のうち評価可能な 1469 人	
	対象者情報 (国籍)	1. 日本人 2. 日本人以外 3. 国籍区別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1. 男性 2. 女性 3. 男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1. 乳幼児 2. 小児 3. 青年 4. 中高年 5. 老人 6. 乳幼児・小児 7. 乳幼児・小児・青年 8. 乳幼児・小児・青年・中高年 9. 乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10. 小児・青年 11. 小児・青年・中高年 12. 小児・青年・中高年・老人 13. 青年・中高年 14. 青年・中高年・老人 15. 中高年・老人 16. 乳幼児・青年 17. 乳幼児・中高年 18. 乳幼児・老人 19. 小児・中高年 20. 小児・老人 21. 青年・老人 22. 年齢区別せず (22)	
	介入 (要因曝露)	性別、発症部位、tumour thickness, level of invasion, 潰瘍、mit 細胞分裂数, lymphocytic reaction, dominant type of invasive tumour cell、年齢、潰瘍を伴わない痂皮、部分生検、全摘生検、切除マージン	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	生存率	1. 主要 2. 副次 3. その他 (3)
	2		1. 主要 2. 副次 3. その他 ()
	3		1. 主要 2. 副次 3. その他 ()
	4		1. 主要 2. 副次 3. その他 ()
	5		1. 主要 2. 副次 3. その他 ()
	6		1. 主要 2. 副次 3. その他 ()
	7		1. 主要 2. 副次 3. その他 ()
	8		1. 主要 2. 副次 3. その他 ()
	9		1. 主要 2. 副次 3. その他 ()
	10		1. 主要 2. 副次 3. その他 ()
	主な結果	多変量解析によると原発巣に線維化が見られず転移の無い患者においては、性別 ($p < 0.002$)、発症部位 ($p < 0.0001$)、tumour thickness ($p < 0.0001$)、level of invasion ($p < 0.001$)、潰瘍 ($p < 0.001$)、細胞分裂数 ($p < 0.0001$)、lymphocytic reaction ($p < 0.001$)、dominant type of invasive tumour cell ($p < 0.0001$) が生存率に影響する因子であった。一方年齢 ($p = 0.6$)、潰瘍を伴わない痂皮 ($p = 0.2$)、部分生検 ($p = 0.3$)、全摘生検 ($p = 0.1$)、切除マージン ($p = 0.4$) は生存率に影響する因子とならなかった。637 人で筋膜の切除が行われたが cox の回帰分析において生存率に影響を与える因子でないと結果が出た ($p = 0.6$)。	

	結論	転移の無い患者において原発巣に線維化がない場合、性別、発症部位、tumour thickness, level of invasion, 潰瘍、mit 細胞分裂数, lymphocytic reaction, dominant type of invasive tumour cell が生存率に影響する因子である。切除マージンや筋膜切除の有無は予後に影響する因子ではない。
	備考	
レビュワーコメント	レビュワー氏名	古賀弘志
	レビュワーコメント	エビデンスのレベル分類（ IV ） 筋膜切除の有無は生存率にたいして独立危険因子とはならなかった古い論文だが多数例を多変量解析した優れた報告である。